

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）
「郷土とことわざ」（人間の科学新社・共著）等

「だんだん どうも」

「だんだん どうも」「だんだん どうもお世話になります」

これは、県内の主に魚沼地方と頸城地方に残る挨拶ことばです。

「こんにちは」程度の慣用句として、あるいは「いつもお世話になっております」の気持ちを表す句として、道端、田畑、軒先、店先など、日常のあらゆる場面で使用されています。さしずめ英語なら「ハロー!」、県内随所で耳にする「ごめんください」、さらにくだけて「ごめんなせ〜」に該当することばとあったところでしょう。

なお、県内ではこの「ごめんください」や「ごめんなせ〜」の挨拶ことばは、訪問時だけでなく、退散時の「失礼します」「さようなら」の意としても使われています。そのため県外人には「すみません」と謝罪することばとして受け取られてしまい、「県外人泣かせの新潟ことば」のひとつになっています。実際、県外から新潟にきた某氏から、某庁舎内の廊下で顔見知りに出くわすたび「いや、ごめんなせ〜」と言われるため、「なんか、謝られることあったっけ?」と思っていたという話を聞きました。「挨拶ことば」に地域性がみられる例といえましょう。

さて、以前、「だんだん」という題名で島根を舞台にした連続テレビ小説がありました。こちらは「ありがとう」の意を伝える方言です。島根、鳥取、山口、高知、愛媛、そして福岡、熊本、大分、宮崎でかつて使われていたといいますが、本来「だ

だんだん おおきに」と感謝の意を伝えることばでした。それが江戸時代に京から近畿地方、そして周辺地に広まりながら時代とともに「おおきに」が省略化され「だんだん」になったとの説があります。

一方、「だんだん」が新潟県内の「だんだん、お世話になります」のように「いろいろと」「重ね重ね」「たくさん」の意味で使われる地は、隣県山形、富山、石川、滋賀、高知、宮崎、長崎にみられます。調べてみると島根では「ありがとう」の意で使われる地と「お世話になります」の意で使われる地があったのですが、おおむね海岸沿いの県に「重ね重ね」の使い方残っているのも興味深く、ことばの伝播の不思議を感じます。

「段々畑」という語があるように、それこそ畑作地を積み重ねるようにして「だんだん」という儀礼のことばも日々折々の中から生まれ育まれてきたのかも知れません。人々の交流の基本である挨拶と感謝、「だんだん」の温もりある響きに込められているようです。

註：なお、「だんだん」の使用地には諸説ありますが、筆者の調査と『全国方言辞典』（東條操編）によるものとします。

